

作品タイトル

MaaS 的、ナッジな交通占いコーナー

提案の趣旨

現在の三河安城駅は、まわりにたくさんの駐車場があります。車で来て、新幹線（や JR）に乗り換える人が多いので「マイカーの利用が大前提の駅」といえるでしょう。

2026 年に多目的交流拠点（アリーナ）が建設されると多くの来訪者が見込まれます。マイカー利用が中心となるでしょうが、イベント交通の挙動は予測しにくいので渋滞や事故につながりやすいです。駅を利用する人との混乱が生じるかもしれませんね。駅が今より不便になっては本末転倒ですので、シャトルバス、相乗り、時間をずらすなど、交通行動には配慮が求められるでしょう。

2025 年から 2030 年頃には、自動運転レベル 5 が実現すると言われています。三河安城駅から本證寺までタクシー代は 4000 円くらいかかってしまいますが、自動運転タクシーなら 300 円で済むのだとか。NHK の大河ドラマ「どうする家康」を見た視聴者が、新幹線で三河安城まできて自動運転タクシーで本證寺まで来るというのも十分現実的です。新幹線を利用する安城市民のエリアも広がるでしょう。

一方で、マイカーの自動運転車が増えると、わざわざ有料駐車場に入れずに、無人のままぐるぐると路上を走行し続けたほうが安く済むと言われています。多目的交流拠点（アリーナ）に来る人全員がこれをすると、道路は周回する車両で渋滞します。一人ひとりにとっては合理的でも、みんながやると不合理になってしまう。このようなジレンマ現象を解消するには、電車を使ったり、相乗りしたり、有料駐車場に入れるなど、一人ひとりが配慮した交通行動をすることが求められるでしょう。

道路は限りのある社会資本です。MaaS や自動運転などの未来の技術が実現しても、皆で譲り合って使わねばならないことは変わりません。このことを「わかりやすく」「楽しく」伝えることで、三河安城駅の新幹線乗降客数はずっと増え、周辺のまちの価値を高めることに繋がるのではないかと考えたことが今回の提案に至った理由です。

※ 注記：

MaaS とは「Mobility as a Service」の略で移動をサービスとして捉える最近の言葉です。自動運転タクシーを考慮したので使いました。タイトルでは「マアステキ！」と発音していただけると嬉しいです。

ナッジとは「望ましい行動をとれるよう、人を後押しするアプローチのこと。お金や罰則に頼らずに、自発的な行動変容を促す」ことが特徴です。占いもナッジの一種なのでは。。

モビリティ・マネジメントとは「1人1人のモビリティが、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策」とされています。お説教くさいメッセージになりがちなのでなかなか耳を傾けてもらえません。行政が実施する場合は正確性も問われるのでハードルが高いです。でも、占いなら文句を言う人はいません。当たるも八卦当たらぬも八卦ですから。

以上